

令和 4 年 9 月 2 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03116

研究課題名（和文）地域包括ケアシステムに貢献できる看護職コンピテンシー育成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Educational Program on Nurses' Competency for Comprehensive Community Care System

研究代表者

叶谷 由佳（KANOKA, Yuka）

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：80313253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,090,000円

研究成果の概要（和文）：文献レビューおよびインタビューに調査から得られた、43項目のキーコンピテンシーについて質問紙調査にて妥当性の検証を行い、すべての項目が地域包括ケアシステムに貢献できる看護職のキーコンピテンシーとして必要であることが確認できた。地域包括ケアシステムに貢献できる看護職コンピテンシー育成プログラムとしては、11項目の教育内容が必要であると研究者間で議論され、テキストおよび講義動画の作成を行い、複数の地域包括ケアサービスを提供している福祉法人Fで勤務する看護職に実際に使用してもらい、コンピテンシーが向上すると思うという意見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

各地域で構築されつつある地域包括ケアシステムは、今後さらにサービス形態が多様化することも予想される。そのため、個々のサービスに合わせた教育ではなく、それらに共通して必要なキーコンピテンシーを明確にして作成した本教育プログラムは、将来的な変化にも対応でき、かつ効率的な育成・人材供給に結びつけられると考えている。

研究成果の概要（英文）： The 43 key competencies obtained from the literature review and interviews were validated through a questionnaire survey, and all items were confirmed to be necessary as key competencies for nurses who can contribute to the integrated community care system. The researchers discussed the need for an 11-item educational content for a nursing competency development program that can contribute to the integrated community care system, and prepared a textbook and lecture videos, which were actually used by nurses working at Welfare Corporation F, which provides multiple comprehensive community care services. The researchers obtained feedback that they thought the program would improve competency.

研究分野：高齢者看護学及び地域看護学関連

キーワード：地域包括ケアシステム コンピテンシー 看護職 教育 ケアマネジメント

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2017年9月現在の日本の高齢化率は27.7%と世界一高く、我が国の対策や研究結果は今後高齢化が加速するアジア諸国のモデルとなることが期待される。2011年の介護保険改正で掲げられた理念は、高齢であっても最期まで地域で生活できるように生活支援サービスが日常生活の場で適切に提供できる体制としての「地域包括ケアシステム」であり、2025年までの実現を目指し構築が進められている。その一環として2000年介護保険法施行時に創設された居宅サービスと施設サービスに加え、地域密着型サービス、24時間対応の定期巡回・随時対応型サービス等がその後新設された。また、2011年の「高齢者住まい法」改正で最低限のサービス(安否確認、生活相談)を義務付けたサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)が創設され、財政面での優遇策を背景に徐々に増加している。このように、地域包括ケアシステムを構成するサービスは多様化している(図1)。

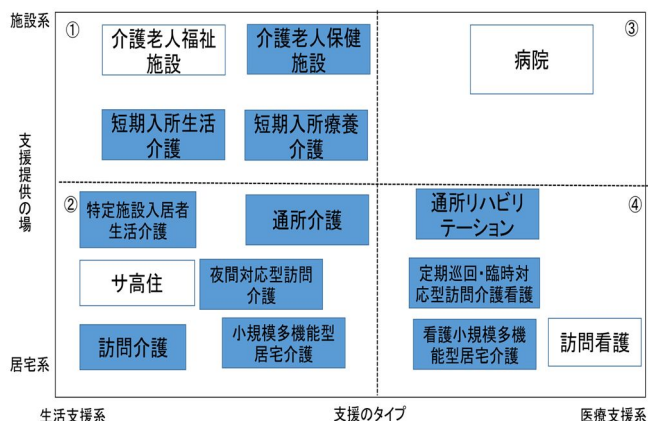


図1 地域包括ケアシステムにおける代表的なサービスの類型化

これらのサービスには設置基準として看護職の配置を義務付けられたものが多く、看護職の需要が増えている。一方、政策的に看取りの場となることが期待されていても、看護職の必置人数が少ない、または義務付けされていないサービスもあるが、その場合でも外部サービスとしての看護提供が求められる。しかしこの看護職需要増は数だけの問題ではない。サービスの種類によって看護職の配置や役割は異なり、さらにその配置人数によっても求められる役割や能力は異なることが予想される。加えて、少人数配置の場合、施設・事業所内の同僚看護職からOJTで学ぶ機会が少ない上、外部研修への参加も難しいため、配置後の学習機会は限られている。

したがって、地域包括ケアシステムの中で求められる多様な役割に応えられる看護職を育てるには、各サービスにおける看護職の役割やその特徴を明確にした上で、そこに共通し特に求められるキーコンピテンシーとなる能力を明らかにし、それらを身につけさせる教育プログラムや研修を提供するのが効率的と考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステムに貢献する看護職のコンピテンシー育成プログラム開発である。

3. 研究の方法

(1)文献レビューおよび情報収集

文献検索データベースである医学中央雑誌 web を用いて地域包括ケアシステムに係る施設・事業所において必要とされる看護職のコンピテンシーについて文献検索を行い、地域包括ケアシステムに貢献できる看護職に求められるキーコンピテンシーに関わると考えられる概念を抽出する。また、福祉先進国であるスウェーデンにおける高齢者ケアについて視察を行う。

(2)ケアマネジメントの実態調査

ケア提供する利用者のケアマネジメントは、どの地域包括ケアシステムに係る施設・事業所でも求められることが考えられたため、ケアマネジメントの要素について文献検討を行い得られた49項目について、A市の介護支援専門員3162名を対象に質問紙調査を実施する。

(3)各サービスにおける看護職の機能・役割調査

介護老人福祉施設、病院、訪問看護事業所の看護管理者 10 名とサービス付き高齢者向け住宅の管理者 3 名を対象に、地域包括ケアシステムで求められる看護職の機能や役割、必要なコンピテンシーについてインタビュー調査を実施する。

(4)キーコンピテンシーモデルの作成及び妥当性検証

(1)文献レビューと(3)各サービスにおける看護職の機能・役割調査で得られたコンピテンシーから、地域包括ケアシステムの看護職に必要なキーコンピテンシーを抽出する。抽出したキーコンピテンシーの妥当性について、これから高齢化が急激に進むことが予測される A 市と既に高齢化が進んでいる B 県における介護老人福祉施設、介護老人保健施設、サービス付き高齢者向け住宅、特定施設入居者生活介護、訪問介護、病院、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護という 8 種類の施設・事業所、2426 件対象として質問紙調査を実施する。キーコンピテンシーについては、「とても必要」～「まったく必要ない」の 4 段階で回答を求め、「とても必要」「まあ必要」という回答が全体の 80%を超えたものについて、地域包括ケアシステムに貢献できる看護職のキーコンピテンシーとする。

(5)プログラムの作成および実施・評価

得られたキーコンピテンシーを基に、研究者間で議論を行い教育プログラムのコンテンツを決定する。決定したコンテンツについて、具体的な教育内容を検討し、テキストおよび講義動画を作成する。作成した教育プログラムについて、地域包括ケアシステムに係る施設・事業所で勤務する看護職 4 名に試行していただき、評価を行う。

4. 研究成果

(1)文献レビューおよび情報収集

スウェーデンにおける高齢者ケア提供事業所の視察を行った結果、看護職は介護職、リハビリ職、ソーシャルワーカー等の多職種と協働してケアを提供していることがわかり多職種協働の能力が必要であることが示唆された。

(2)ケアマネジメントの実態調査

介護支援専門員 3162 人を対象とした自記式質問紙調査を実施した結果、808 人(25.5%)から有効回答を得た。探索的因子分析を行った後にケアマネジメントの質を反映するケアマネジメント遂行得点を計算し介護支援専門員の属性などとの二変量解析を行い、二変量解析で関連が示された要因の関連の度合いを検討するために重回帰分析を行った。重回帰分析の結果、ケアマネジメントの質に関連する要因として寄与の大きいものから順に、仕事をする上での心がけ、介護支援専門員の通算経験月数、多職種連携についての研修、意思決定支援についての研修、介護支援専門員の倫理綱領を知っていること、看護についての研修が示された。

(3)各サービスにおける看護職の機能・役割調査

介護老人福祉施設、病院、訪問看護事業所の看護管理者 10 名におけるインタビュー調査から、地域包括ケアシステムにおける看護職に必要なコンピテンシーについて 30 のカテゴリが抽出された。得られたコンピテンシーをまとめた結果、『多職種連携』『地域包括ケアにおける看護職としての役割自覚』『日常生活や健康管理の視点をもった看護提供』『看取りの対応』『介護職とのかかわり』『看護職同士の連携』『コミュニケーション』『アセスメント』『リーダーシップ』『認知症ケア』『マネジメントと移行支援』『合意形成の実施』『人材育成』の 13 項目に分類することができた。サービス付き高齢者向け住宅の管理者 3 名におけるイ

インタビュー調査から、地域包括ケアシステムにおける看護職に必要なコンピテンシーについて「医療的視点での日々の状態観察」「看護職に関わって欲しいという利用者ニーズへの対応」等、9つのコンピテンシーが抽出された。

(4)キーコンピテンシーモデルの作成及び妥当性検証

(1)の文献レビューと(3)のインタビュー調査から抽出したコンピテンシーを明確にしたところ、「その人らしい生活を支えるという視点から幅広い医療に関する知識・技術を用いてアセスメント(査定)やケアを行う」「利用者の尊厳を守り、意思決定を支える」「自分が持つ知識を基にその場の状況把握と対処方法について主体的に判断し行動する」「終末期看護を中心となって展開する介護職に看護職を呼ぶ指標となる徴候の具体的な指示をする」「介護職にも分かりやすい用語を用いた情報共有や教育をする」「医療面・急変時におけるリーダーシップを発揮する」などの全部で40項目となった。調査の結果、すべての項目が80%以上の同意率だった。最も高い同意率は99.3%だった。病院とそれ以外の所属の回答者で重視するコンピテンシーは5項目、看護職とそれ以外の回答者で重視するコンピテンシーは9項目で同意率に有意な差があった。自由記載から3つのコンピテンシーを抽出し、地域包括ケアシステムに貢献できる看護職のキーコンピテンシーは全部で43項目とした。

(5)プログラムの作成および実施・評価

43項目のキーコンピテンシーを身に着けるための10項目の教育内容案を作成し、研究者間で議論を行った。その結果、「看護の専門性」「日常生活支援」「疾患の知識と看護」「高齢者との関係性」「看取り」の「家族看護」「多職種連携」「リーダーシップ」「災害対策」「ケアマネジメントと移行支援」「認知症ケア」の計11項目を教育項目とすることや教育の構成を再編する必要性が指摘され、その再編成に合わせた教育内容案を検討した。また、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、デイサービス、訪問看護ステーション等、複数の地域包括ケアサービスを提供している福祉法人Fと議論を行い、現場で必要と思っていること、ニーズについて把握した。それらを踏まえて教育プログラムを作成し、テキストおよび講義動画を研究者にて作成した。作成した教育プログラムについては、福祉法人Fに勤務する看護職4名に対して実施を行い、「介護職との関わりの視点がすごく良かった」「ターミナルの視点があって良かった」など教育プログラムを通してコンピテンシーが向上すると思うという意見を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hoshi M, Kanoya Y, Doi M, Sasaki-O A, Enokigura T, Kashiwagi M, Ohtake M, Sugimoto K, Kashiwazaki I, Moriguchi F	4. 巻 1
2. 論文標題 Key competencies required for nurses to contribute to an integrated community care system	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CITIES FOR PEOPLE FROM THEORY TO PRACTICE International Academic Consortium for Sustainable Cities	6. 最初と最後の頁 333 - 345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金田明子, 叶谷由佳	4. 巻 未定
2. 論文標題 介護支援専門員による在宅要介護高齢者のケアマネジメントの質に関連する要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本健康医学会	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Hoshi M, Kanoya Y, Doi M, Sasaki O A, Enokigura T, Kashiwagi M, Ohtake M, Sugimoto K, Kashiwazaki I, Moriguchi F
2. 発表標題 Key competencies required for nurses to contribute to an integrated community care system
3. 学会等名 International Academic Consortium for Sustainable Cities (IACSC)2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kanoya Y, Moriguchi F, Kashiwazaki I, Doi M, Enokigura T, Sasaki-O A
2. 発表標題 Nurses' knowledge and competency needed at nursing homes in Japan
3. 学会等名 IACSC2019, Makassar, Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星美鈴, 叶谷由佳, 杉本健太郎, 大竹まり子, 柏木聖代, 中村幸代, 佐々木晶世, 丸山幸恵
2. 発表標題 地域包括ケアシステムに貢献する看護職を育成するための教育項目案の検討
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 幸代 (NAKAMURA SACHIYO) (10439515)	横浜市立大学・医学部・教授 (22701)	
研究分担者	大竹 まり子 (OHTAKE MARIKO) (40333984)	山形大学・医学部・非常勤講師 (11501)	
研究分担者	丸山 幸恵 (MARUYAMA YUKIE) (50550696)	横浜市立大学・医学部・講師 (22701)	
研究分担者	土肥 眞奈 (菅野) (DOI MANA) (50721081)	横浜市立大学・医学部・准教授 (22701)	
研究分担者	柏木 聖代 (KASHIWAGI MASAYO) (80328088)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉本 健太郎 (SUGIMOTO KENTARO) (80724939)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・講師 (22501)	
研究分担者	佐々木 晶世 (SASAKI AKIYO) (90538018)	横浜市立大学・医学部・講師 (22701)	
研究分担者	柏崎 郁子 (KASHIWAZAKI IKUKO) (90826702)	東京女子医科大学・看護学部・助教 (32653)	
研究分担者	本多 由起子 (HONDA YUKIKO) (90782219)	長崎大学・医歯薬学総合研究科・研究協力員 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関